

講師からのメッセージ

前回の伝道講習会へのメッセージにおいて私は、

「世界は大きな歴史的転換点にあるように思われます。そうした中、私たちがお預かりする寺院も社会状況の変化やご門徒の減少などによって、その将来に不安を感じることも少なくありません。これは小手先の努力や工夫で解消されたり、抗うことができるものではないかもしれません。

ここにおいて先ずははっきりしておかなければならないのは、私たちはお預かりしているお寺の運営や伽藍の維持が困難になったら、親鸞聖人の教えを聞き、それを自身が生きる上での大事とすることを止めるのか、どうするのかということです。住職なので、寺に住んでいるから、家業を継続するために教えと関わるということなら、継続できないなら関りをやめることもあり得ることです。

それがおかしいことだと言うものではありません。またどちらにするのか決断しなければいけないと言うのでもありません。私たちはどこで教えと関わってきたのか、どこで教えを聞こうとしているのかを改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

さらに、個人的に教えを聞き学ぶことを大切にするということだけなら、お寺に居る必要はありません。多くのご門徒は、一般の家庭にあってそれぞれの仕事をされながら教えを聞いて歩んでいらっしゃると思います。お寺は親鸞聖人の教えを伝える教化活動を行うためにあるものです。またお寺に住み、大谷派教師としてあるということは、教えを伝え教化することを職分としていただいているということです。そのことをこの状況の中であって、どのように尽くしていくのかは私たちの重大な問題です。」

と申し上げました。

この点が、現在の私自身においても重大な問題であることは、全く変わりありません。これに加えて大谷派教師であるということについて、現在宗門挙げて取り組みが始まった「是旃陀羅問題学習テキスト 御同朋を生きる」では、「宗祖親鸞聖人の教えを護持伝達すべき僧分にあずかったものこそが、宗祖の教えに背いた教化をなしてきたその歴史的罪責を背負わなければならない。」(P103) と、その課題が明らかにされています。

このことからこの度の講習では、親鸞聖人が法然上人に出会われて以降、一貫して問題にされ、それを「魔界外道」と表現された私たち自身の課題についてご一緒に考えてみたいと思っています。よろしくお願いします。

四衢 亮